

地域振興用周波数の有効利用のための技術的条件に関する調査検討会(第2回)  
議事録(概要版)

日時：平成27年8月24日(月) 13:45～15:45

場所：青森県平内町 勤労青少年ホーム「視聴覚室」

(青森県東津軽郡平内町大字小湊字小湊79-3)

配布資料：

- 資料2-1 第1回調査検討会議事録案
- 資料2-2 デジタル地域振興用システムに必要なチャンネル数の算定
- 資料2-3 デジタル地域振興用システムの変調方式の選定
- 資料2-4 他無線システムとの干渉検討とラボ内試験の実施方法について
- 資料2-5 実証試験の実施方法(青森県陸奥湾における電波伝搬試験)
- 資料2-6 実証試験の公開

1. 開会

事務局の進行で開会した。

2. 配布資料等の確認

事務局より配布資料と構成員の出席状況について確認が行われた。

3. 議事

- 座長の進行により議事が進められた。

(1) 資料2-1の第1回調査検討会議事録案について

事務局より各構成員に事前に確認し了承を得ている旨説明、了承された。

(2) デジタル地域振興用システムに必要なチャンネル数の算定について

資料2-2に基づき、事務局よりデジタル地域振興用システムに必要なチャンネル数の算定について説明。本件については特に質疑応答はなく了承された。

(3) デジタル地域振興用システムの変調方式の選定

資料2-3に基づき、事務局よりデジタル地域振興用システムの変調方式の選定に

ついて説明。以下に主な質疑応答を示す。

●価格というところでの基準を知りたい。MCA方式ならば中継局とかコントロールシステム、運用コストなどもあるので、何の価格なのかその考え方を知りたい。

→事務局：記載している価格は、現状使われているアナログFMを基準に無線機の価格などを比較して記載している。MCA方式については信号の制御方式によって価格が変わってくるので、変調方式とは別の議論になる。

●ユーザーにとっては、コントロールするシステムが高くなると維持費も含めて問題になる。そこが曖昧ではないか。

→事務局：変調方式を比較しており、MCAはメーカーの考え方によって変わる。

(4) 他無線システムとの干渉検討とラボ内試験の実施方法について

資料2-4に基づき、事務局より他無線システムとの干渉検討とラボ内試験の実施方法について説明。以下に主な質疑応答を示す。

●「同一チャンネル周波数共用条件」の離隔距離について、実証実験には都市雑音の影響がある。実際に海はノイズが低いので、電波が飛びやすく、干渉は増える傾向にあるため、都市雑音も考慮して海上における測定を実施しておくが良い。

→事務局：海上での実験方法は資料2-5で説明するが、都市雑音の測定を加える。

(5) 実証試験の実施方法について

資料2-5に基づき、事務局より実証試験の実施方法について説明。以下に主な質疑応答を示す。

●机上検討 2波モデルによる検討方法だが、h2は現状のマリンコミュニティホーンで使用している漁船のアンテナ高さと同じか。

→事務局：同じです。

●海上で使用する上での審査基準へのマージンを導くというよりは、とにかく通話を確認するということか。

→事務局：大目的がマリンコミュニティホーンをデジタルで使えるか否かであり、通話が結論になる。

(6) 実証試験の公開について

資料2-5に基づき、事務局より実証試験の公開について説明。

(7) その他

以上